

平成29年度 第2回下野市総合教育会議議事録

- 1 日 時 平成30年1月30日(火) 午前10時00分～午前11時40分
- 2 場 所 下野市役所 3階 教育委員会室
- 3 出席者 下野市長 広瀬寿雄
(下野市教育委員会)
教育委員長 永山伸一
委員 三橋明美
委員 熊田裕子
委員 石嶋和夫

(事務局関係)
総務人事課主幹 大口貴史
教育次長 坪山 仁
教育総務課長 小谷野 雅美
学校教育課長 海老原 忠
教育総務課長補佐 伊澤仁一
教育総務課主幹 古橋 栄一
- 4 欠席者 (下野市教育委員会)
教育長 池澤 勤
(事務局関係)
総務部長 山中庄一
総務人事課長 清水光則
- 5 傍聴人 なし
- 6 議 事
- 7 報 告
(1) 国分寺小学校及び国分寺西小学校における再編計画書(案)について
(1) 下野市小中一貫教育の推進について
(2) 学校運営協議会について
(3) 石橋中学校校舎大規模改修工事の概要について
(4) その他

<p>古橋教育総務課主幹</p> <p>広瀬市長</p>	<p>ただいまより、平成29年度第2回下野市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>広瀬市長からご挨拶いただきしたいと思います。</p> <p>改めましておはようございます。本日は第2回目の下野市総合教育会議ということでお集まりいただきましたがよろしくお願ひします。</p> <p>昨年2月になりますが、この教育会議の中で小規模特認校である国分寺西小学校が平成31年4月に国分寺小学校と再編するということを決意いたしました。その件につきまして、学校適正配置推進協議会では本年4回の会議を開催し、今回の議事となる「国分寺小学校及び国分寺西小学校における再編計画書（案）」が策定されたと伺っております。</p> <p>既に1月18日の教育委員会定例会議において提言書として提出され、そして教育委員会の中でも十分議論されたということですが、本日は私を交え、お互いに意見交換をしながら方向性を決めていきたいと思ひます。</p> <p>本市の小中一貫教育につきましては、今回の再編が先駆けとなります。小中一貫教育は各地区それぞれに違った体系のもと進めていくこととなりますが、教育の根幹になる部分は、子どもたちの教育環境の充実であり、同じ思いの中で子どもたちを育てていくことに変わりはありません。これらを踏まえ十分に協議を進めてまいりたいと考えております。</p> <p>また、報告事項については、ただいま申し上げました、小中一貫教育の推進について及び学校運営協議会について、石橋中学校校舎大規模改修工事の概要についてと、多岐にわたっております。こうした部分につきましても委員の皆さまから様々なご意見を伺い、方向性を共に確認しながら進めていきたいと考えております。</p> <p>以上お願ひ申し上げまして冒頭の挨拶に替えさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
<p>古橋教育総務課主幹</p> <p>永山委員長</p>	<p>続きまして、永山教育委員長よりご挨拶をお願ひいたします。</p> <p>皆さんおはようございます。本日は第2回目の下野市総合教育会議ということになりますのでよろしくお願ひします。ただいま市長さんからもお話がありましたように、今月18日に下野市学校適正配置推進協議会より「国分寺小学校及び国分寺西小学校における再編計画書（案）」についてご提案いただいたところです。教育委員会の方でもこれについては十分に議論いたしまして、本日は市長さんと共に、この問題について考えてまいりたいと思っております。少子化という変えられない現実に対し、どのようにしたらより良い教育環境を用意できるのか、ご提案いただいた貴重なご意見でございますので、こちらに則って協議を進めてまいりたいと考えております。</p> <p>また、学校運営協議会についても、ご報告いただくということですので私どもの意見を述べ、市長さんのご意見等を伺いながら、これからの下野市の教育について考えてまいりたいと思ひます。</p> <p>さて話が変わりますが、例えば私がこの席で「子どもの教育は家庭において母親が全て責任を負うべきだ」と申し上げたら、今の社会では大反発を招くこととなります。それは、我々の意識というものが過去と現在ではだいぶ変わってきたからだと思ひます。</p> <p>ところが、「子どもの教育を社会全体で見えていきましょう」と言った時、</p>

	<p>言葉ではそういう意識にはなっていないでも現実はどうかと考えますと、教育を学校に押し付け、先生が全ての責任をとるべきであるという風潮が非常に蔓延しているように思います。かつては女性だけに押し付けていた、言われなき責任分担というものが、形を変えて社会の中で起きているのではないかと考えております。子どもたちは我々の社会を支え未来を担っていく人材ですので、本来は社会全体で支えていくべきものだと思います。</p> <p>その意味で、学校運営協議会という制度は、地域と学校という視点ではありますが、この社会の中で、皆で一緒に子どもを育てていこうとする際の一里塚になります。家庭で父親も母親も子どもの教育について平等に責任を負うようになってきたように、これからの社会が、応分にこの責任を負い、働き、そして見守ることの一步になればと思っております。そういった大きな視点からの議論も進めていけるようお願いをし、冒頭の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。</p>
古橋教育総務課主幹	<p>ありがとうございました。</p>
広瀬市長	<p>総合教育会議では広瀬市長が議長となり、議事進行を行うことになっています。以下、広瀬市長の進行でよろしく願いいたします。</p>
小谷野教育総務課長	<p>それでは、総合教育会議の議長を務めさせていただきます。よろしく願いいたします。早速次第に従いまして、議事に入らせていただきます。</p> <p>(1) 国分寺小学校及び国分寺西小学校における再編計画書(案)についてを議題といたします。事務局より説明をお願いします。</p> <p>【説明要旨】</p>
広瀬市長	<p>以下、「国分寺小学校及び国分寺西小学校における再編計画書(案)」に基づき内容の詳細について説明を行う。</p> <p>ただいま事務局より、学校適正配置推進協議会から提言いただきました再編計画書(案)について説明がありました。平成31年4月に国分寺小学校と国分寺西小学校は再編となりますが、説明会の中でも保護者が特に関心があったものは「子どもたちがお互いにうまくやっけていけるのか」という、学習を含めた交流の部分だと思います。</p> <p>また、通学手段としてスクールバスを導入するという点についても、運行が1年だけなのか、これからずっと継続されるのかといった不安も抱えているようです。</p> <p>総合教育会議ではこの辺のところを中心として、ご意見を伺い協議を進めていきたいと思っております。</p>
三橋委員	<p>順番になりますが、各委員お一人ずつご意見を伺いたいと思っております。</p> <p>前回の教育委員会では、「国分寺小学校の中には国分寺西小学校と同じくらいの遠距離を通学している児童がいるので、他の地区であってもスクールバスが利用できるのではないか」という憶測の話をさせていただきました。スクールバスは国分寺西小学校に限定して運行するとのことですが、計画書に示されたこの内容が、周りの方にも浸透するように、市としての考えを早い時期に示した方が良くと思っておりました。</p> <p>また、国分寺西小学校が無くなると、地域としても寂しくなってしまうというご意見がありましたが、スクールバスが定期的に運行され、子どもたちが国分寺小学校から安全に地域へ帰ってくるとなれば、住む人達が減るとい</p>

<p>石嶋委員</p>	<p>う心配も軽減されるのではないかと思います。この辺についても、織り込みながら説明する必要があると感じました。</p> <p>交流事業の説明で国分寺西小学校の児童が、まずドッジボールをやりたいと言った報告がありましたが、それが核心だろうと思います。児童数が少ないと、こうした要望に応えることはできないし、先生が教育活動を行う上での「ねらい」の部分も、なかなか叶わないのではないのでしょうか。</p> <p>子どもたち同士の交流事業については計画書の6ページに明記されておりますので、これだけ計画していれば、我々のような大人と違って、子どもの順応は早いと思いますので、余り心配はしていません。</p> <p>それよりも、国分寺西小学校が無くなることに対する、地域の方のノスタルジックな部分が心配です。私自身も自分が通っていた学校が無くなってしまった経験者でありますので、その時は、「学校も地域とともに変わるんだ」という驚きがありました。地域の方の中には、同じような寂しさを抱えていくと思うので、その辺の配慮が必要だと思います。</p> <p>国分寺小学校と国分寺西小学校の保護者については、中学校では同級生だった方も多いと思いますので、児童交流や保護者交流を重ねることによって、この部分はしっかりと深まっていくのではないかと感じました。</p>
<p>熊田委員</p>	<p>石嶋委員もおっしゃっていましたが、子ども同士の交流については、大人の心配をよそに自然と打ち解けていくのではないかと考えています。ドッジボールの件についても、国分寺西小学校の児童からもっとやりたいとの声があがったという報告を聞いて、嬉しく感じました。個人的に国分寺西小学校のPTAの方とお会いすることがありますが、特に混乱することはなく、来年度の行事に向けて盛り上がっているという話も伺っていますので、着実に進めていただければと思います。</p> <p>スクールバスの運行期限については、なかなか財源的にも厳しいとは思いますが、当事者だったら私も不安になってしまうと思いますので、もう少し具体的な見通しを示すことができれば、保護者の方は安心すると思います。</p> <p>また、教育委員会会議でも発言しましたが、国分寺西小学校の校舎の利活用については、行政だけではなく、国分寺小学校の学校運営協議会においても考えていただき、地域の活性化につなげてほしいと感じました。</p>
<p>永山委員長</p>	<p>再編の準備として実施している小小連携活動については、非常に活発に行っているという印象を受けました。再編案が出たときに一番心配していた部分でありますので、このままスムーズに打ち解けていけるのではないかと安心いたしました。</p> <p>保護者のことを考えますと、「自分の子どもがずっとこの学校に通っていて良いのかな」、「この学校を卒業して将来どうなるのかな」等の不安を持たせずに、「下野市の学校に任せておけば大丈夫」という安心感を与える部分が大切だと思います。</p> <p>再編計画書には、学力向上や語学力、コミュニケーション能力、系統的な指導など、抽象的に書かれてありますが、この言葉の意味が「実はこれである」ということを、これから我々や学校の先生方が具体的に実施し、胸を張って言えるようにすることが重要であると思います。</p> <p>箱としては良いと思いますが、これに魂を加えなければ、この学校で学べ</p>

広瀬市長

て良かったという充実感やこの学校に任せておけば大丈夫だという安心感を与えることはできません。これからこの箱をいかに上手に使っていくかが問われてくると考えます。

委員の皆さんからご意見がありました、スクールバスにつきましては、ゾーンングの中で国分寺西小学校の安全な通学路を確保しながら、運用することになりますが、本市としては初めての導入ということになります。

運用後の部分につきましては、改めて、遠いところから来ている子どもたちをどうするのか段階的に考えていくような、そういった柔軟性をもって良いのではないかと思います。子どもたちの足で4kmを超えて歩くことは安全なのかそうでないか、体力的には大丈夫なのか等を考えると、国分寺小学校だけの課題だけではなく、学校全体の課題として捉えていくべきであると思います。

先ほど、両校の子どもたちが体育の授業で楽しくドッジボールをしたという報告がありましたが、こうした光景は小規模校の中では見られなかったことだと思います。小規模校の子どもたちが、早い段階で大人数の子どもたちの中で教育を受けるということは、中学生になって初めて顔を合わせていたこれまでの状況とは、良い意味で異なっておりまいます。これからも、こうした授業を重ねながら、子どもたちが楽しく学校に通う姿を見れば、ご家族が抱えている再編への不安は解消され、安心していただけたらと思います。

また、小中一貫教育という点においては、永山委員長のご意見にもあったように、再編計画書では具体的になっていない部分、例えば「語学力」一つにしても、外国語教育をどのように具体化していくのか、教育委員会においても何か方法を考えなくてはならないと思います。

平成31年の4月には再編という形で地域から学校が無くなってしまいうわけですが、地域の人にとっては学校という存在が遠くなってしまいうような気がすると思います。行政として、こうした寂しさを感じさせないような取組が必要となってまいりますが、この中には校舎の跡地利用等も含まれてきます。今後は地域の方々の考えを聞きながら、ベストな方法を検討していきたいと思います。

この再編計画書(案)の内容について付け加えた方が良いという点がございますか。(特になし)

提言書の内容について、委員の意見が出尽くしたようですので、「国分寺小学校及び国分寺西小学校における再編計画書(案)」について、総合教育会議として、提言書の内容のとおり承認し決定してよろしいでしょうか。

(全委員承認)

議事(1)につきましては、異議無く承認されました。

続きまして、報告に移ります。(1)下野市小中一貫教育の推進について事務局より説明をお願いします。

海老原学校教育課長

【説明要旨】

平成31年度からの小中一貫教育全面実施に向け、市全体の小中一貫教育計画及び進捗管理を行う下野市小中一貫教育推進協議会の設置についてご報告いたします。

以下、資料「下野市の小中一貫教育」及び「下野市小中一貫教育推進体制

<p>広瀬市長</p> <p>永山委員長</p>	<p>図」に基づき説明を行う。</p> <p>ただいま、事務局より報告がありました。これについてご意見・ご質問等がありましたらお願いします。</p> <p>先ほどの国分寺小学校と国分寺西小学校との問題もそうですが、小中一貫教育を実施する以上、これまでとは違った成果というものがないと、全く意味がないと考えます。当然、お金もかかることですし、施設一体型となるとそこに投資をしていくわけですから、一般的な感覚から言えば、投資をすればそこに対してリターンがあると考えます。ここでのリターンは子どもたちに与えられるものになると思います。</p> <p>形は小中一貫教育で整えましたと言っても、何が変わったのかを説明する際に、抽象的な内容で終わってしまっただけでは、自己満足になってしまいます。周りで見ている人、実際に学ぶ人、学ばせている家庭が、以前と比べ「小中一貫教育って違うんだね」と納得するところが無いとやはり意味のないものになってしまいます。</p> <p>私個人的に、指導要領に載っていることをそのままやる分には、小中一貫教育でなくても良いと思っています。小中一貫教育を行う上では、やはり指導要領にプラスして加えるスパイス的なアイデアが大切であると考えています。そのアイデアを2点ほど考えてきました。</p> <p>まず1つ目は、タッチメソッド—ブラインドタッチでパソコンのキーボードをたたける技術—を身に付けるということです。中学校3年間で身に付けた技術を試す場として検定試験を実施したり、あるいは各中学校区で競い合ったりすることも可能ではないかと思えます。大学ではレポートをパソコンで書くことが多くありますが、「なぜ君はそんなにキーボード早いのか」と聞かれた時に、「下野市ではタッチメソッドをやるんだよ」という話ができるくらいになれば、これは実際に目に見えるエビデンスとなります。</p> <p>2つ目は、英語教育におけるボキャブラリーの向上です。本当に伝えたいことを、限られた語彙の中で話すということは、真意が伝わらないばかりか相手からその程度のことしか考えていないのかと思われてしまう恐れがあります。</p> <p>そこで、例えば小学校1年生から英字新聞の記事を皆で読解するというようなことをやってみます。辞書の引き方から学習することになりますが、そこは小中一貫教育ですから中学生の力等を借りながら、皆で1週間かけてそこにある単語を全て拾い上げ意味を調べて来ます。そして、最後は皆で意味を訳してみるような学びをしてみてもどうでしょうか。</p> <p>当然、全員が同じようにボキャブラリーを習得することはできないと思いますが、こうした学びを通して英語は面白いなと感じた子は、もっとたくさんのお金を習得しようと努力します。ボキャブラリーは言語の中の骨材となりますから、文法や英会話の技術を磨こうとしても、組み上げる骨材がなければ建物は立ちません。まず、中学校を卒業するまでに6千語くらいのボキャブラリーをお土産として持たせてあげたいと思えますが、学習指導要領の目標としているボキャブラリー数だけでは到底間に合いません。</p> <p>小中一貫教育という仕組みの中に、何か市独自のアイデアを入れ、今後は学校運営協議会等の地域連携も入ってまいりますので、そういった人材も</p>
--------------------------	--

広瀬市長	<p>活用しながら、他市町と一味違ったことを進めていかなければ、小中一貫教育をやって良かったという印象を与えることは中々できないと感じています。</p>
石嶋委員	<p>ご指摘のとおり、小中一貫教育を推進していく上での仕組みづくりにプラスして、スパイスとしてのアイディアを出し合いながら、子どもたちが「どのように変わるのか」というところを見える形で示していかなければならないと思います。</p> <p>私は小中一貫教育を考えた場合、そのコンセプトになっている「つなぐ」というキーワードが非常に重要だと思います。これまでは、小学校の先生が児童を、中学校の先生が生徒を見ていたわけですが、小中学校の先生が児童生徒の双方を見ていくことができるようになりますので、教職員の組織化・機能化というものを、今まで以上に重視しなければならないと考えています。「つなぐ」ということは、逆から見ると隙間が生じるということですから、資料における8つの「つなぐ」には、それぞれに「隙間」が生じる恐れがあるということです。小中一貫教育により枠組みが広がる分、いろんな隙間を埋めていくためには、今後益々、先生方の意識や力量というものが重要になってくると思います。</p>
広瀬市長	<p>この「つなぐ」というキーワードは、南河内中学校区に導入される義務教育学校で最も顕著になってくると思います。先ほどのご意見同様、小中一貫教育の成果を見える形で示していくことが求められてまいります。</p>
熊田委員	<p>小学校から中学校に向けての中1ギャップはどうしても生じてくる問題であると思います。小中一貫教育で小学生のうちから中学校の生活が見えることで、長期欠席や不登校を減らしていくことができる意味で有効であると考えています。</p>
広瀬市長	<p>また、中学校の学習でつまづいていた子が小学校の先生のフォローによって、一旦戻ってから先に進んで行くという効果も期待できると思いますので、学習とメンタル両方の見える化につながるものと考えています。</p> <p>小中一貫教育を行うと、例えば学童野球をやっている子どもたちが、中学校の野球部の先輩方の姿を見るというのは、子どもたちにとって、とても良い刺激となり、それだけでも学校の在り方が違ってくるのではないかと思います。また、中学生が小学生の面倒をみることで余裕が生まれると、生徒間でのぎくしゃくした部分もなくなるのではないかと期待しています。</p> <p>「つなぐ」という連続した教育を行うことによって、ブラインドタッチや英語の翻訳といった1つの課題にじっくりと、長期的に取り組むことも可能となります。また、中学校を卒業するまで子どもに向き合える家庭がある一方で、残念ではありますが、小学3年生までしか向き合えない家庭というものがでてまいります。こうした、学校の中では見えない家庭の隙間についても小中が連携することで、早めに埋めることができるという部分は何事にも代えがたいことだと考えています。</p>
	<p>これは生涯学習の話になりますが、現在、学校ボランティアが300名ほどの登録があるそうですが、学校でどのくらいの活用があるのか聞いたところ、10件に満たないということでした。先生方の多忙になってしまうかも知れませんが、そこは上手くボランティアの人材を活用いただくと共に、協</p>

	<p>働ですから、学校だけではなく下野市として市民皆様の協力を仰ぎながら、子どもたちを共に育てていきたいと思ひます。</p>
石嶋委員	<p>他に、委員の皆様からご意見・ご質問はありますか。</p> <p>補足させていただきますと、私は中1ギャップは必ずしもあつてはならないものだと考へていません。これは乗り越えるべき壁であり、壁がなければ人間として成長はありません。上手に乗り越えることができれば、これは必ず成長につながってくると思ひます。</p>
広瀬市長	<p>他にご意見等ありますか。(特になし)</p> <p>続きまして、(2) 学校運営協議会について事務局より説明をお願いします。</p>
海老原学校教育課長	<p>【説明要旨】</p> <p>地域とともにある学校を目指して学校評議員制度を廃止し、平成30年度より学校運営協議会を導入します。そのために作成した「学校運営協議会マニュアル(案)」についてご報告します。</p> <p>以下、資料3「下野市学校運営協議会運営マニュアル(案)」に基づき詳細な説明を行う。</p>
広瀬市長	<p>ただいま、事務局より学校運営協議会について説明がありましたが、これについてご意見・ご質問等がありましたらお願いします。</p> <p>学校運営協議会の委員報酬は、学校長や教職員にも支払うことになるのですか。</p>
海老原学校教育課長	<p>除外となります。</p>
広瀬市長	<p>委員の定数は、10名を16校に置くということによろしいですか。</p>
海老原学校教育課長	<p>10名以内としておりますので、学校の規模によっては、10名よりも少ない場合も出てくると思ひます。また、報酬額については、近隣市町の状況等も踏まえながら設定しました。</p>
広瀬市長	<p>医師が委員となる場合もありますか。</p>
海老原学校教育課長	<p>医師という立場で委員になることは、想定しておりません。</p>
広瀬市長	<p>委員報酬額が低い分、ボランティアの要素が高くなりますので、学校運営協議会の委員を長く勤めていただいた方については、新たに表彰規程に盛り込む等、感謝状についても検討していければと考へています。</p>
伊澤教育総務課課長補佐	<p>他にご意見等ありますか。(特になし)</p> <p>続きまして、(3) 石橋中学校校舎大規模改修工事の概要について事務局より説明をお願いします。</p> <p>【説明要旨】</p> <p>平成30・31年度に実施する石橋中学校の大規模改修工事について、現在までの経緯及び改修工事の概要、仮設校舎の設置などについてご報告します。</p>
広瀬市長	<p>以下、資料4「石橋中学校大規模改修事業の概要について」に基づき、詳細な説明を行う。</p> <p>ただいま、事務局より大規模改修について説明がありましたが、これについて委員の皆様からご意見・ご質問等がありましたらお願いします。</p>
石嶋委員	<p>授業参観に行ったときに、4階の廊下で肩車をして遊んでいた生徒に対して注意したことがあります。落ちたら終わりなのでサッシを入れていただけ</p>

<p>広瀬市長</p>	<p>るということでありがたいと思います。近代的で斬新な建物なので、先生方の安全確保への努力はとても大変なものであったと思います。巨額を費やしてこういった配慮をしていただけるのは、本当にありがたいと思います。</p>
<p>石嶋委員 伊澤教育総務課課長補佐</p>	<p>確かに驚くほどの金額になります。石橋中学校の現状を見ると教育環境の改善は急務です。</p>
<p>石嶋委員</p>	<p>屋根の点検については、専門業者が行うということによろしいですか。素人では登れませんので、基本的には専門業者が行うことを想定しております。</p>
<p>広瀬市長</p>	<p>当時、貯水槽の点検は教頭の役割となっており、非常に怖い思いをしましたので、専門業者が行っていただけるということで安心しました。</p>
<p>広瀬市長</p>	<p>この建物については、法的にも構造的にも改修が困難でありましたが、廊下と外が一緒という危険な状況をなくすためには、やらなければならないと判断しました。</p>
<p>広瀬市長</p>	<p>先ほどの説明にありました、仮設校舎の樹木については、単純に切るということではなく大松山運動公園に移設する旨をもっと周知してください。</p> <p>他にご意見等ありますか。(特になし)</p> <p>続いて、最後になります。その他に移ります。</p> <p>事務局から何かありますか。(特になし)</p> <p>委員の皆さまから何かありましたらお願いします。(特になし)</p> <p>それでは、以上で全ての議事が終了いたしましたので、進行を事務局に戻します。本日はありがとうございました。</p>
<p>古橋教育総務課主幹</p>	<p>長時間にわたりまして、慎重審議ありがとうございました。以上を持ちまして、平成29年度第2回下野市総合教育会議を閉会いたします。</p>